

津々浦々 ⑤7

津久見市長 吉本章 司

近年の異常気象と津久見市では

陽がカンカンと照り、ジリジリと焼けるような晴れの日が少なく、いつも曇っていて蒸し暑く、時には大雨が降るといった日が多かったのが今年の夏です。私も今まで、このような夏を経験した覚えはありません。今では流行語となっている「異常気象」ですが、冷夏による野菜の高騰はあったものの、花に水をやる回数も少なく、電力不足も生じず、津久見市にとって、は穏やかな面もありました。しかし、8月7、9日にかけての雨は、津久見市でも100ミリを超える大雨となり、市道八戸線の法面が崩壊。道路を塞ぎ、その上部にも落石しそうな箇所があったため、ここを通行止めとしました。他には林道尺間山線の彦の内入口からすぐの所でも崩落があり、ここも通行止めとしました。八戸地区へ行くには林道西ノ内・八戸線のみとなったわけで、八戸地区の方々には不便かけましたが、9月中には復

旧工事を終え、10月からは通行できるようになります。

一方、全国的には、考えられないような降水量と降水時間、そして集中的に同じ地域に雨が降ったため、広島、京都、北海道等で大きな被害が出ました。

広島市を襲った

豪雨による土砂災害

8月20日、広島市の旧可部町辺りで、死者74名にも及ぶ悲惨な土砂災害が起きました。可部町は広島市のベッドタウンとして発展し、山林近くまで宅地開発されてきた町で、市町村合併で広島市に編入されました。広島市も900平方キロメートルと広域になったため、同じ市内でも降水量に大きな差が生じたと思われれます。

今回の広島市の集中豪雨に対しては、19日の午後9時26分に大雨洪水警報が気象庁から出され、約2時間後に一旦警報は解除されて

います。その後20日の午前1時15分に土砂災害警戒情報が、1時21分には再び洪水警報が発令されています。午前1時～2時の時間雨量は28ミリ、2時～3時は80ミリ、3時～4時の間は101ミリと短時間に猛烈な雨が降っています。広島市の対応としては、20日の午前1時35分に災害警戒本部を、3時30分に災害対策本部を立ち上げております。その後、4時15分に避難勧告を、7時58分に避難指示を発令したとのことですが、その時間にはすでに土砂災害が発生しており、結果的に対応の遅れが指摘されております。

広島市の土砂災害から学ぶこと

この9月議会で2人の議員さんから「今回の広島のような集中豪雨に対応できるのか」との質問が出されました。真夜中で、しかもこれだけの短時間に200ミリを超える降雨があった事を考えると、その対応は大変難しいと言わざるを得ません。津久見市としては、できる限り被害を最小限に防ぐよう最大限の努力をしてみたいです。風水害の準備では、大雨警報等が

発令された場合、災害対策連絡室の体制をとり、気象台や県等の関係機関と連携しながら担当の職員が警戒や情報収集にあたります。さらに、降雨の状況に応じて、災害対策警戒本部、災害対策本部と体制を強化し、1次～3次配備要因に区分けした職員を対策に応じて招集することとしています。なお、台風接近等があらかじめ予測される場合は、事前に土のうの確保や避難所確保の準備等をおこなっています。

今回の広島などの土砂災害を教訓に、国のガイドラインに沿った避難勧告等の判断基準の再検討をするともに、早めの避難勧告等の発令を心がけるよう、改めての見直し作業をおこなっているところだ。

自然災害に対しては、各人が自らの判断で行動をとることが原則ではありますが、避難行動の判断をするための情報提供の方法等を更に検討してみたいです。

「自分の命は自分で守る」という意識での確かな行動をとるようお願いいたします。